

こども大将が登場

8月3日、忍城址で「成田座～一日こども大将～」が行われました。

この催しは、市内幼稚園の園児が忍城城代の成田長親に代わり、一日こども大将として、忍城おもてなし甲冑隊と一緒に演舞のパフォーマンスをするものです。陣羽織や烏帽子を身に付けた園児は、甲冑隊と息の合ったパフォーマンスを披露。堂々とした小さな大将に、会場から惜しみない拍手が送られていました。



写真館

GYODA CITY PHOTO STUDIO

今年も熱い！行田の夏祭り

7月26日・27日の2日間、「第21回市民祭・行田浮き城まつり」が開催されました。

27日に一時的に強い雨が降りましたが、両日ともよく晴れ、絶好の祭り日和となり、多くの人でにぎわいました。祭りのメインである「だんべ踊り」には22チーム、1,180人が参加し、個性豊かな衣装を身にまとい、元気いっぱいに踊っていました。また、フィナーレを飾ったのは、山車のたたき合い。今年新たに「元内連合」が加わり、6台の山車が横一列に並ぶと、会場の熱気は最高潮に。力強い掛け声やお囃子が祭りを一層熱く盛り上げていました。



ロコモ防止には運動が大切

8月8日、商工センター401研修室で健康講座「ロコモを知って健康寿命を延ばそう」が行われました。

ロコモとはロコモティブシンドロームのことで、骨・関節・筋肉などに障害が起き、歩行や日常生活が困難になり、要介護になる危険性が高い状態をいいます。この講座ではファイザー株式会社の産業医である長谷川亜紀子さんが講師を務め、ロコモになる仕組みやその防止策を解説。参加者はメモを取ったり、熱心に耳を傾けたりして健康意識を高めていました。その後、ロコモを予防するトレーニングや体操などを行い、健康寿命を延ばすためには実際に体を動かすことが大切であることを実感している様子でした。



嬭恋村村長が行田市を訪れました

8月8日、群馬県嬭恋村の熊川栄村長が本市を表敬訪問しました。

今回の訪問は、埼玉県に住んでいる方が同村に別荘を有し、固定資産税を納付していただいていることへのお礼と同村の観光PRを目的としたもの。村長自らがトップセールス役を務め、同村の特産品であるキャベツを工藤市長に手渡しました。その後、首長自らが先頭に立ち、あらゆる手段を活用してまちの魅力を発信していくことが必要であるなど、まちのPR方法についてお互いに意見交換をしました。



水害に備えて、水防技術を向上

8月2日、須加小学校裏利根川堤防で水防演習が行われました。

早朝から太陽の強い日差しが照りつける中、この演習に水防団員およびものづくり大学の学生、総勢151人が参加しました。この日は、利根川の水位が増し、堤防が決壊する恐れがあるといった場面を想定。水防団員たちは、土のう作りや竹尖げ・杭拵え工法など8つの工法訓練に臨み、水防技術を向上させました。今後、台風やゲリラ豪雨などによる災害が発生するかもしれません。この演習に参加した水防団員たちは、被害の拡大を防ぐために日ごろの訓練が必要であることを再認識することができました。



平和な世界を願う

8月3日、「みらい」文化ホールで、平和のための行田戦争展が開催されました。

当日は、「原爆と人間」をテーマにした写真の展示会やコンサートが行われた他、女流初の真打に昇進した落語家の古今亭菊千代さんを迎え、平和に関する講演や落語「平和でなければ落語は笑ってもらえない」が披露されました。来場者誰もが、悲惨な戦争は二度と繰り返してはならないことを改めて認識していました。



消防士体験を夏の思い出に

8月7日、消防署で「夏休み一日消防士体験」が行われました。

この催しは、実際に消防の仕事体験してもらい、夏休みの思い出にしようという目的で行われたもの。参加した58人の小学生は、消防の役割や仕事の内容について説明を受けた後、レスキュー訓練や放水訓練などを体験しました。普段味わうことのできない貴重な経験をした児童たちにとって、忘れられない夏の思い出となったことでしょう。

